



第3章

うめたてち きおく
埋立地の記憶

1977年に始まった埋め立て工事は、1990年に終了しました。かつての「魚いおわ湧く海」は失われ、58.2ヘクタールの広大な土地がつけられました。この章では、埋立地に対する思いや記憶を7名の方うかがに伺います。



埋立地を 通る時は 今でもひやひやする

埋め立てには反対だった。
でも、有機水銀を封じ込めんばいかんということで、埋め立てた。

魚も封じ込めることになってしまって。
埋立地を通る時は、魚たちがかわいそうで、
ひやひやしなから通るといふか、
今でもそんな気持ちがするとです。

そういう気持ちを鎮めるために、何かないと。
ただ無造作に埋め立てっぱなしじゃ、魚たちがかわいそうだし。

だから親水護岸にお地藏さんを置いたんです。

すぎもとたけし
杉本雄さん 1939 年生まれ



埋立地は 生きものの墓場

以前、水俣湾には、
魚たちがたくさん泳いで暮らしていたんです。
しかし水俣病が発生したことによって、
封じ込めてしまいました。

水俣湾埋立地には、
水銀のヘドロがいっぱい封じ込められているわけです。

魚もドラム缶3千本に詰め込まれて、
コンクリートで固められて、眠っているとされています。

ですから、埋立地は生きものの墓場みたいなところだと、
私は思っています。

おがたまさみ
緒方正実さん 1957 年生まれ



ひやっけんはいすいこう
百間排水口の
じぞう
お地蔵さん



にいがた あがのがわ
(写真上)新潟水俣病が発生した阿賀野川の石で
作られたお地蔵さん。
(写真左)チツソの百間排水口。ここからメチル水銀
はいすい ちよくせつ
を含む工場廃水が海へ直接流された。

父が建てたお地蔵さんは、

チツソの排水口をにらみつけるようにして建っています。

チツソや国が二度とあやまちを繰り返さないように、

人は間違いを犯す^{おか}ということを

忘れないようにするためです。

かわもとあいichろう
川本愛一郎さん 1958年生まれ



しんすいごが
親水護岸の
たましいし
魂石



ここには、魚が、生きものの魂^{たましい}が埋まってるんだから、
忘れられないように、鎮魂^{ちんこん}するために、
記念のものを置きたいと思ったとです。

魂石^{たましいし}というですよ、あのお地蔵^{じぞう}さんは。

忘れ去られれば、犠牲^{ぎせい}になった魚たちが何にもならん。
子や孫の代までずっと伝えんばいかん。
そのために、証^{あかし}として建てたと。

見る人に、「どうしてお地蔵さんがあるのかな」って
思っほしかったいな。

すぎもとたけし
杉本雄さん 1939年生まれ

火のまつり



火のまつりは、1994 年から水俣湾埋立地で行なわれている。親水護岸の魂石に魂入れを
し、埋立地を荘厳する儀式として始まった。現在は水俣病で犠牲になった生命すべてに祈りを
ささげ、地域再生の願いを火に託す行事として毎年行なわれている。

第1回「火のまつり」で、うちの母ちゃんの語りがあった。
「おったち(私たち)も苦しかったけども、
鳥どん、魚どん、あんたたちも苦しかったろう」。

それを聞いて、太鼓のメンバーの一人が泣き出した。
「おげん(俺んちの)母ちゃんも、苦しかったんやろうね…」。

みんな口には出さないけれど、
同じ苦しみを持っているって思った。

水俣病の話っていうのは、みんな語ろうとしなかった。
ふたをして語らないことで、忘れられる。
楽になれると思っていた。

あの時、語ることで同じような苦しみを分かり合い、
語りを聞いていたメンバーを見て、
少し楽になれたような気がした。

すぎもとはじめ
杉本肇さん 1961 年生まれ



新作能「しらぬい 不知火」



2004年8月28日、台風16号の直撃が危ぶまれる中、約1300人の立ち合いのもと、石牟礼道子さんの新作能「不知火」が、水俣湾埋立地の親水護岸で奉納された。

水俣は、およそ50年におよぶ^{じゆなん}受難の歴史を
背負^{せ お}ってきたところです。

この長い歴史の中で、

たくさんの命が傷つき、痛んできたことを、

ともにみなさんと記憶し、

また祈りをささげたいと、

そういう思いで奉納を呼びかけさせていただきました。

奉納前のあいさつより

おがたまさと
緒方正人さん 1953年生まれ



みしょう
実生の森



水俣湾には、潮が引くと、
大きな浜はま小浦こらが現あらわれていました。
海の生きものたちの命が生まれて、
育はぐまれる場所だったのです。

そこを人間の都合で埋めてしまって、
もう新しい命は生まれなくなってしまいました。

森をつくれば、鳥たちもやってくるだろうし、
いろいろな生きものが出入りすることになります。

人間の公園ではない、新しい命が生まれてくる場を、
市民でつくろうとしたのが実生の森です。

かなざしじゅんぺい
金刺潤平さん 1959年生まれ



●実生●挿し木などではなく、
種子から発芽した植物のこと。



●浜はま小浦●磯いそ(石の多い海岸)のこと。磯にはたくさんのプランクトンがいるため、それを食べる海の生きものが集まってくる。

いの
祈りのこけし



水俣湾埋立地にある実生の森の木の枝で、
こけしを作っています。

水俣病の被害に遭い、苦しみながら失われた、
人間、魚、鳥、すべての魂が、
木に宿っていると思っています。

失われたすべての生命に祈りをささげ、
「命の大切さ」と、
二度と水俣病のような悲劇が繰り返されないよう、
願いを込めて作り続けています。

目や鼻や口を描いていないのは、未完成の意味です。
受け取られた方の思いの中で、完成させてください。

緒方正実さん 1957 年生まれ